

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○確かな学力の育成
目標(評価規準)	校内研修、授業研究を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、生徒一人ひとりに資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。	
重点に係る現状 設定理由	学習指導要領では、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」）をバランスよく育むことが求められている。そこで、校内研修・授業研究をとおして「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善を進め、これら三つの力をバランスよく育成するように努める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>教職員の回答は概ね肯定的であった。</p> <p>【肯定的回答】「判断できない」除く。()内はR6年度。</p> <p>①「授業や指導法の工夫」……………100.0% (100.0%)</p> <p>②「授業に意欲をもって取り組む」…100.0% (90.9%)</p> <p>③「適時適切な学習評価」……………100.0% (95.5%)</p> <p>④「家庭学習の取組み」……………76.5% (90.9%)</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒アンケートおよび保護者アンケートとも、①～③については概ね肯定的回答が得られたが、④「家庭学習」については課題が残る結果であった。</p> <p>【肯定的回答】「判断できない」除く。()内はR6年度。</p> <p>①「授業や指導法の工夫」……………生徒95.9%、保護者93.8% (生徒93.3%、保護者82.4%)</p> <p>②「授業に意欲をもって取り組む」……生徒88.4%、保護者84.1% (生徒83.2%、保護者72.1%)</p> <p>③「適時適切な学習評価」……………生徒94.6%、保護者82.4% (生徒91.2%、保護者79.8%)</p> <p>④「家庭学習の取組み」……生徒(下段参照)、保護者85.7% (保護者78.7%)</p> <p>1年生：「2時間以上」14.3%、「1～2時間」26.2%、「30分～1時間」23.8%、「30分以下」35.7%</p> <p>2年生：「2時間以上」9.3%、「1～2時間」34.9%、「30分～1時間」27.9%、「30分以下」27.9%</p> <p>3年生：「2時間以上」23.4%、「1～2時間」39.1%、「30分～1時間」25.0%、「30分以下」12.5%</p> <p>参考(R6年度)</p> <p>1年生：「2時間以上」16.1%、「1～2時間」25.8%、「30分～1時間」24.2%、「30分以下」30.6%</p> <p>2年生：「2時間以上」6.0%、「1～2時間」31.3%、「30分～1時間」32.8%、「30分以下」29.9%</p> <p>3年生：「2時間以上」43.5%、「1～2時間」30.4%、「30分～1時間」14.5%、「30分以下」11.6%</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>「家庭学習の取組み」について、課題が浮き彫りとなる結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ①～③について、生徒、保護者とも数年連続して肯定的回答が増加傾向にあり、授業改善や三つの柱を意識した指導が定着しつつあり、生徒の授業への意欲向上も見られた。 ● 一方で、④「家庭学習の取組み」について課題が残った。保護者の肯定的評価(85.7%)に対して生徒の回答は、特に1・2年生の約3割、3年生でも約1割が「30分以下」となっており、昨年度と比較しても家庭学習時間が減少傾向にある点は看過できない。 <p>※ 今後は、個に応じたきめ細かな指導、ICTを活用した個別最適な学習支援をはじめ、授業で生じた問いを深める予習・復習の工夫などをおし「授業と家庭学習の連動」を図っていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒・保護者の学校・教職員への信頼が学校の安定につながり、学校の安定が教職員の教材研究や授業内容の充実に、そして、授業の充実が生徒の自己肯定感やさらなる教職員への信頼を高めるといった好循環になっている。 ● 数学は筋道がハッキリしている教科であり、躓いたところまで遡って「わかる、できる」ようにすることが教科に対する自己肯定感につながる。次年度の取組み(「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」)で数学に重点をおくのはよいことなのではないか。
最終改善方策	<p>学習意欲向上の兆しが見えつつある中、今後は教科に対する自己肯定感を向上させ、家庭学習の習慣化を図りたい。そこで次のような手立てを講ずることで課題解消に取り組む。</p> <p>① 校内研究をとおした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組みをさらに充実させ、生徒の学習意欲のさらなる向上を図る。</p> <p>② 「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」を活用して生徒の自己管理能力・自己調整能力の育成を図る中で、学習記録の活用により、家庭学習への意識付けや定着を図る。</p> <p>③ 「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」の調整授業時数を活用し、数学の授業時数を増やすことで、主体的な学習意欲の喚起、小学校での既習事項の定着、概念理解を促す。</p> <p>④ 「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」の一環として、三崎中学校数学科教員と岬陽小学校算数担当教員が連携して9年間の見直しをもった資質能力の育成を図る。</p>

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○豊かな社会性の涵養
目標(評価規準)	基本的な生活習慣の定着を図るとともに、「互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくり」を通して生徒一人ひとりの豊かな社会性の涵養に努める。	
重点に係る現状 設定理由	変化の激しい予測困難な社会を生きる生徒には、自らの人生を形作り、他者の人生に貢献していくための当事者意識や目的意識、必要な資質・能力を身につけさせる必要がある。そこで、自ら考えて責任ある行動をとれる主体性をもった生徒を育成するため、学校という集団生活の場をととして豊かな社会性の涵養に努めたい。今年度は、家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着、規範意識や社会的マナーの伸張を重点とする。	

評価資料	評価																								
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>教職員の回答は、①において課題を残す結果であった。</p> <p>【肯定的回答】「判断できない」除く。()内はR6年度。</p> <table border="0"> <tr> <td>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」</td> <td>……</td> <td>70.6%</td> <td>(63.6%)</td> </tr> <tr> <td>②「社会のルールや学校のきまり」</td> <td>……</td> <td>94.1%</td> <td>(86.4%)</td> </tr> <tr> <td>③「多様な人と関わり協働した学校生活」</td> <td>……</td> <td>100.0%</td> <td>(77.3%)</td> </tr> <tr> <td>④「責任ある行動をとること」</td> <td>……</td> <td>94.1%</td> <td>(90.9%)</td> </tr> </table>	①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」	……	70.6%	(63.6%)	②「社会のルールや学校のきまり」	……	94.1%	(86.4%)	③「多様な人と関わり協働した学校生活」	……	100.0%	(77.3%)	④「責任ある行動をとること」	……	94.1%	(90.9%)								
①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」	……	70.6%	(63.6%)																						
②「社会のルールや学校のきまり」	……	94.1%	(86.4%)																						
③「多様な人と関わり協働した学校生活」	……	100.0%	(77.3%)																						
④「責任ある行動をとること」	……	94.1%	(90.9%)																						
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。</p> <p>【肯定的回答】「判断できない」除く。()内はR6年度。</p> <table border="0"> <tr> <td>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」</td> <td>……</td> <td>生徒76.7%、保護者77.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(生徒78.6%、保護者78.4%)</td> </tr> <tr> <td>②「社会のルールや学校のきまり」</td> <td>……</td> <td>生徒97.9%、保護者100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(生徒97.4%、保護者94.6%)</td> </tr> <tr> <td>③「多様な人と関わり協働した学校生活」</td> <td>……</td> <td>生徒96.5%、保護者91.7%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(生徒91.6%、保護者92.2%)</td> </tr> <tr> <td>④「責任ある行動をとること」</td> <td>……</td> <td>生徒89.5%、保護者90.1%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(生徒88.4%、保護者92.2%)</td> </tr> </table>	①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」	……	生徒76.7%、保護者77.0%			(生徒78.6%、保護者78.4%)	②「社会のルールや学校のきまり」	……	生徒97.9%、保護者100.0%			(生徒97.4%、保護者94.6%)	③「多様な人と関わり協働した学校生活」	……	生徒96.5%、保護者91.7%			(生徒91.6%、保護者92.2%)	④「責任ある行動をとること」	……	生徒89.5%、保護者90.1%			(生徒88.4%、保護者92.2%)
①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」	……	生徒76.7%、保護者77.0%																							
		(生徒78.6%、保護者78.4%)																							
②「社会のルールや学校のきまり」	……	生徒97.9%、保護者100.0%																							
		(生徒97.4%、保護者94.6%)																							
③「多様な人と関わり協働した学校生活」	……	生徒96.5%、保護者91.7%																							
		(生徒91.6%、保護者92.2%)																							
④「責任ある行動をとること」	……	生徒89.5%、保護者90.1%																							
		(生徒88.4%、保護者92.2%)																							
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>今年度も「基本的な生活習慣」の課題が浮き彫りとなる結果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ②～④について、昨年度より肯定的な回答が増加し、集団生活を通じた社会性の涵養、互いを認め合い、責任ある行動を促す集団づくりが着実に成果を上げた。 ● 一方で、「基本的な生活習慣・規則正しい生活」については、教職員の肯定的回答が70.6%に留まり、生徒・保護者の回答も他項目に比べると低く、目標達成に向けた課題として残った。 <p>※ 今後は、学校生活の基盤となる基本的な生活習慣の定着に向け、家庭・地域との連携を強化するとともに、きめ細かな個別指導を徹底したい。</p>																								
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が落ち着いていて、生徒間トラブルが少ないのは、教員の目が行き届いているからだろう。 ● 夜、店の前で座り込んだり、ゴミを散らかす中高生を見なくなった。 ● 今の中学生の中に大きく集団を乱すような子はおらず、むしろ親御さんとべったりで、かわいい感じの子が多い。 																								
最終改善方策	<p>規範意識や社会性の涵養について向上の兆しが見えつつある中、これまでの取組みに加え、基本的な生活習慣の定着に重点をおきたい。そこで次のような手立てを講ずることで課題を解消する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」を活用した、生徒の自己管理能力・自己調整能力の育成を図る中で、生活記録の活用等により、規則正しい生活への意識付けや定着を図る。 ② 生徒が自ら考えて行動できる場を生徒会活動や行事等でさらに創出していく。 ③ 保護者への情報提供を積極的に行い、学校での取組みについて理解を求める。 ④ 薬物や闇バイト等の誘惑について、関係機関と連携した啓発に努め、規範意識の醸成を図る。 																								

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○安全・安心な学習環境と開かれた学校づくり
目標(評価規準)	生徒が安全・安心に学校生活を送れる環境づくりに努めるとともに、学校たより等による情報発信や保護者・地域との緊密な連携を通じた「開かれた学校づくり」を進める。	
重点に係る現状 設定理由	コロナ禍の経験から学校は生徒の安全・安心につながる場ではなければならないことが再確認された。これまで以上に、命や人権の重みを最優先し、生徒にとって安全・安心な場所であり、安定した生活を送れる学校をめざしたい。また、「地域の学校」として、学校の教育活動の積極的な公開、情報発信に努めるとともに、学校と保護者・地域との相互理解を深め、連携・協力をしながら学校づくりを進める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。</p> <p>【肯定的回答】「判断できない」除く。()内はR6年度。</p> <p>①「子どもたちの安全・安心を守ること」……100.0% (95.5%)</p> <p>②「命や人権の大切さ」……94.1% (90.9%)</p> <p>③「開かれた学校」……100.0% (90.9%)</p> <p>④「教職員の対応」……100.0% (100.0%)</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。</p> <p>【肯定的回答】「判断できない」除く。()内はR6年度。</p> <p>①「子どもたちの安全・安心を守ること」……生徒93.8%、保護者91.7% (生徒90.1%、保護者86.3%)</p> <p>②「命や人権の大切さ」……生徒99.3%、保護者100.0% (生徒98.4%、保護者96.3%)</p> <p>③「教職員からの承認」……生徒95.8% (93.2%)</p> <p>「開かれた学校」……保護者96.6% (89.6%)</p> <p>④「教職員の対応」……生徒94.2%、保護者94.8% (生徒91.3%、保護者80.2%)</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>教職員・生徒・保護者とも安全・安心な学習環境と開かれた学校づくりについて極めて高い評価を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒・保護者アンケートでは全項目で昨年度を上回る高い支持が得られた。特に「命や人権の大切さ」については、保護者の肯定的回答が100%、生徒も99.3%という数値を示し、人権意識の醸成が深く浸透した。 ● また、情報発信や地域連携を通じた「開かれた学校づくり」について、保護者の肯定的回答が大幅に向上(89.6%→96.6%)している。 <p>※ 「安全・安心な学習環境」は教育活動の大前提であり、今後も否定的な回答がゼロとなることを目指した取組みを継続し、さらなる信頼を得られるようにしたい。また、数値に現れない個別の不安や課題にも迅速に対応できるよう一人ひとりの生徒への承認・励ましを継続し、相談しやすい体制を強化するとともに、いじめの未然防止を念頭におき、すべての生徒にとって居心地のよい学校づくりをめざしたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 不登校の未然防止の取組みについて、生徒の居場所を校内に設置して少しでも登校できるようにすることは成果も出ておりたいへん有意義である。ぜひとも継続、充実させてほしい。 ● 全国学力・学習状況調査での「先生は自分の良いところを認めてくれているか」の肯定的回答が100%であることは信じられない。たいへんすばらしい結果である。 ● 「命や人権の大切さ」について、高い評価が出たのは、いじめやトラブルの未然防止の取組みが功を奏しているということ。そして、それが教員が問題行動への対応で忙殺されることなく、余裕をもって授業や生徒へのケアに注力できる、という好循環を生み出しているのではないかと。
最終改善方策	<p>教職員が一人ひとりの生徒に寄り添えたことが生徒の「安全・安心な学習環境」向上に繋がっている。今後、さらなる信頼を得るため、次のような手立てを講じていきたい。</p> <p>① 「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」の調整授業時数を活用した「余白」を、生徒理解や生徒支援のさらなる充実につなげることで、生徒が安心して学校生活を送れる環境を整備する。</p> <p>② これまで以上に情報発信の充実を図り、保護者・地域の教育活動に対する理解を深める。</p> <p>③ 「子どもたち」のためのPTA活動を、「保護者主体」で「自立」して活動する組織となることをめざすとともに、学校と保護者を繋ぐ要となるような環境整備を進める。</p>